

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17055

建築物名称	プラウド武蔵新城スクエア
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 事業推進三部長 足立 総一郎
建築物の所在地	川崎市高津区末長四丁目1415-1
設計者氏名、建築士事務所名	古田 秀行 株式会社エノア総合計画事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,689.41m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	平成31年8月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ブラウド武蔵新城スクエア	階数	地上5F
建設地	川崎市高津区末長四丁目1415-1	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	176 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年2月28日
敷地面積	1,643 m ²	作成者	(株)エノア総合計画事務所 岸川
建築面積	845 m ²	確認日	2018年2月28日
延床面積	3,689 m ²	確認者	(株)エノア総合計画事務所 岡田

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア = 3.2		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.6</p> <p>音環境 3.3 温熱環境 4.0 光・視環境 3.7 空気質環境 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.3</p> <p>機能性 3.6 耐用性 3.0 対応性 3.0</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.7</p> <p>生物環境 2.0 まちなみ 3.0 地域性 3.0</p>
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア = 3.2		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.6</p> <p>建物外皮の 4.0 自然エネ 3.0 設備ステ 3.8 効率的 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.7</p> <p>水資源 2.2 非再生材料の 2.8 汚染物質 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.3</p> <p>地球温暖化 3.9 地域環境 2.8 周辺環境 3.1</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地を豊富に設けている。 緑地を設け良好な景観を形成している。 空地率を40%以上確保している。	2.3/4.3	2.6
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を豊富に設けている。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 カーテンと庇で屋光を制御している。	5.5/6.9	3.9
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地を豊富に設けている。 空地率を40%以上確保している。	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 潜熱回収型給湯器を採用している。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	ノンフロン断熱材を採用している。	2.6/4.7	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を豊富に設けている。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数の長い配管材料を採用している。	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	グリーン購入適合品の材料を採用している。	2.1/4.0	2.7
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水貯留槽を設け、雨水流出を抑制している。	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地を豊富に設けている。 空地率を40%以上確保している。	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 潜熱回収型給湯器を採用している。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を豊富に設けている。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示基準における劣化等級3を満足している。	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における断熱等性能等級4を満足している。 潜熱回収型給湯器を採用している。	3.6/5.0	3.6
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目	重点項目				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分		全体		
	G	W	R	H		評価点	重み係数		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									3.2	
Q1 室内環境									3.6	
1 音環境									3.3	
1.1 室内騒音レベル									-	
1.2 遮音									0.40	
1 開口部遮音性能									-	
2 界壁遮音性能									0.15	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.3	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									1.00	
1.3 吸音									3.3	
2 温熱環境									4.0	
2.1 室温制御									-	
1 室温									0.35	
2 外皮性能									4.0	
3 ゾーン別制御性									1.00	
2.2 湿度制御									-	
2.3 空調方式									-	
3 光・視環境									3.7	
3.1 昼光利用									-	
1 昼光率									0.25	
2 方位別開口									3.7	
3 昼光利用設備									1.00	
3.2 グレア対策									3.7	
1 昼光制御									3.4	
3.3 照度									5.0	
3.4 照明制御									1.0	
4 空気質環境									3.3	
4.1 発生源対策									-	
1 化学汚染物質									0.25	
4.2 換気									3.3	
1 換気量									1.00	
2 自然換気性能									0.63	
3 取り入れ外気への配慮									2.3	
4.3 運用管理									3.0	
1 CO ₂ の監視									0.33	
2 喫煙の制御									0.33	

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.3	
1 機能性					3.0	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.57	5.0	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応			<住居部分>Gbitクラスのブロードバンドに対応			5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性					-	-	2.0	0.40	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース								
3	内装計画						1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.43			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.3	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R		劣化等級3を満足	5.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			2.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		寿命の長い配管材料を採用	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20			
2.4 信頼性					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			耐震クラスはAクラスを採用	4.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり			<住居部分>階高は2.92m			3.2	0.50	
2	空間の形状・自由さ						4.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり							2.0	0.40	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.2
LR1 エネルギー					0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	住戸:等級4	4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BE][BEIm] = 0.92	3.8	0.50	-	3.8
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価								
4.1 モニタリング	W		H					
4.2 運用管理体制	W		H					
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	2.7
1 水資源保護	W	R			2.2	0.20	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.60	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		外部廊下にて塩ビシート	3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R			3.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	-	
1	消火剤	W			-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	W		ノンフロンの断熱材を使用	4.0	0.50	-	
3	冷媒	W			3.0	0.50	-	
LR3 数地外環境					0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	W			省エネルギーの高い設備機器を使用	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮					2.8	0.33	-	2.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		R		3.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		R		1.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	
2	振動				-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制							
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明はなく、外構照明も適切な照明範囲にて計画	4.0	0.70	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	

17055

プラウド武蔵新城スクエア

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に基づいています。